

るからこそ、のどかなこの島に基地をもってきたらいけないなあ、としみじみ思いました。

さてさて、基地問題も気になるころですが、上に書いたエピソードには実は一つの教訓が含まれているんです。それは現場主義。臨床実習中の僕たちにとって最も大切なことは直接患者さんから話を聞くこと。電子カルテに全部書いてあるじゃん！と思ってパソコンの前に座っているだけではその人の病気が全然イメージできないんですね。話を聞いて初めて分かる病気の本質。徳之島に行って初めて分かる基地問題のインパクト。映画館に行って初めて分かる3Dのショボさ。病気は電子カルテではなく患者で起こってるんだ。ちなみに、「踊る大捜査線」の次回作は2Dらしいですよ。

4年次になって

黒崎 滋之 (4年次)

医学科同窓会員のみなさま、いかがお過ごしでしょうか。4年次の黒崎滋之と申します。昨年、3年次へ学士編入学した私も医学部の一年間、そして沖縄の一年間を一通り経験し、様々な面で充実した一年になりました。

沖縄へやってくるまで、人生の大部分を交通手段に恵まれた東京で過ごしていたこともあり、「車は必要ないだろう」と普通免許を取得していませんでした。しかし、いざ沖縄での生活が始まると、役所や銀行、買い物へ行く場合など様々な場面で交通の便の悪さを身をもって感じ、ついに普通免許と車を取得しました。車を運転する際は常に安全運転を努めていますが、それでも人身事故を目撃した時は車の恐ろしさを痛感しました。この時は他のドライバーの方々が応急処置をされ、私自身は少しのことしかできませんでした。5年後、10年後に同じような場面に遭遇したときのことを想像すると、果



たして応急処置ができるようになっていたのだろうか、逃げ腰になってはいないだろうかと不安になります。何はともあれ、くれぐれも交通事故にはご注意ください。

さて、講義については3年次までは基礎医学系の科目がほとんどでしたが、4年次になると全て臨床医学系の科目になりました。基礎医学では構造や機能の面から生体について学んできましたが、臨床医学では疾患とその治療という面からアプローチしています。そのため、基礎医学とは全く別次元の内容を学んでいるように錯覚してしまうこともあります。しかし、正常な構造や機能の破綻によって何らかの疾患に罹患するというのを考えると、臨床医学を理解する前提として解剖学や生理学、生化学、薬理学の理解が必要であり、それら基礎医学をもう一度復習しようと思わされます。臨床医学系科目と同時に、学士編入学は熱帯医学という講義を受け、様々な視点から熱帯医学、そして国際医療について学んでいます。

6月からは、基礎配属実習や離島へき地病院実習が行われます。基礎配属実習では基礎系の各教室に3週間所属し、それぞれのテーマに沿った基礎医学系の実験・実習等を行います。離島へき地病院実習は、様々な島から構成され、交通手段も限定されるという特徴を持った沖縄にある琉球大学ならではの实習であり、公立久米島病院や県立宮古病院、県立八重山病院、県立北部病院にて離島、へき地での医療の実情を学びます。

琉球大学へやってくるまで、人生の大部分を交通手段に恵まれた東京で過ごしていたこともあり、「車は必要ないだろう」と普通免許を取得していませんでした。しかし、いざ沖縄での生活が始まると、役所や銀行、買い物へ行く場合など様々な場面で交通の便の悪さを身をもって感じ、ついに普通免許と車を取得しました。車を運転する際は常に安全運転を努めていますが、それでも人身事故を目撃した時は車の恐ろしさを痛感しました。この時は他のドライバーの方々が応急処置をされ、私自身は少しのことしかできませんでした。5年後、10年後に同じような場面に遭遇したときのことを想像すると、果



「ありがとう」のことばを胸に

飯塚 千紘 (3年次)

期待と不安を抱えながらスーツに着替えて入学式会場の体育館へと向かった日から、早いもので2年の年月が過ぎ、わたしたちは医学部三年目を迎え